



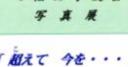
# 新九郎通信

発行 小田原市栄町2-13-3 (株)伊勢治書店3F ギャラリー新九郎 木下泰徳  
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

猛暑、豪雨、水不足と日本中がこの異変に翻弄された夏でした。田の稲はたわわに実をつけ、朝夕の涼風には秋の訪れを感じます。9月。市内の画廊では、一年間温め準備してきた実力あるグループ展の発表が目白押しです。10月の西相展、南足柄市美術展など今年はどうなるのか、アートファンには今から楽しみな芸術の秋の到来です。

## 新九郎9月の展覧会のご案内

## 近隣・友の会会員の展覧会情報

会期 展覧会名	見どころ
 <b>女流展</b> 9/4(水)~9/9(月) 第27回 小田原 女流展	西湘地域を中心に活躍する 13人の女流画家。 裏面に紹介記事があります。
 '13第61回 <b>水曜会洋画展</b> 9/11(水)~9/16(月)	西相美術協会会員を中心に活躍する伝統あるグループです。 裏面に紹介記事があります。
 9/18(水)~9/23(月) 2013年 第二金土デッサン会 会員展	絵画の基礎と言われる人物デッサンを勉強している会。講師は無く、各自自由に描いている
 9/21(土) 新九郎デッサン会	どなたでもお気軽にどうぞ! 18:15-20:45 会費 1500円 コスチューム、固定ポーズ
 つばめ写友会 写真展 9/25(水)~9/30(月) つばめ写友会写真展	「超えて 今を・・・」と題し、20人の会員による風景・草花・人物・各地の行事等の写真

会期・展覧会名	会場
9/19(木)~9/23(月) あーと 彩の会水彩画作品発表会	アオキ画廊 1F 0465-22-0825
9/19(木)~9/23(月) 相原苑江水彩画展	アオキ画廊 2F 0465-23-5624
9/4(水)~9/9(月) 第25回記念 絵好会展	飛鳥画廊 0465-24-2411
9/25(水)~9/30(月) 豊島シズ枝 卒寿展	飛鳥画廊 0465-24-2411
9/3(火)~9/15(日) 第15回若き画家~受賞者展 宮嶋結香展	すどう美術館 0465-36-0740
9/17(火)~9/29(日) 第15回若き画家~受賞者展 黒澤新展	すどう美術館 0465-36-0740
9/3(火)~9/8(日) 浜西勝則版画展 着物シリーズ	丹沢美術館 0463-83-9550
9/17(火)~9/22(日) 小酒井基紘展	丹沢美術館 0463-83-9550
9/28(土)9/29(日) 60回記念小田原市民文化祭 Art Today	小田原市民会館 2F 0465-33-1706 文化政策課

### 東海道五十三次 1.日本橋

5年をかけ、足で歩いたスケッチ紀行 松野光純



東海道五十三次の出発点である日本橋にきた。日本橋の上部は高速道路が架かり、広重の浮世絵にある日本橋の面影はどこにもない。

日本橋は、慶長8年(1603)徳川家康が江戸の町割りを行った際に架けた橋である。近くの河岸からは全国から船で運ばれた物資や魚が陸揚げされ、周辺には伊勢や近江、京都に本店を置く江戸店が立ち並んでいたという。

現在の橋は、明治44年(1911)に架けられたもので、石造り二連アーチ橋として国の重要文化財に指定されている。橋の真ん中には日本道路元標がある。これは日本の道路の起点として明治政府が設置したものである。

### 思うことなど 横井山 泰



なかなか進まなかった絵本を打破するために、平塚市美術館の絵本展を観た。うまく言えないけど大変勉強になった。いい刺激をもらって一気に完成した絵本原画を壁に貼ったまま、妻の店の休みに合わせて旅行をした。旅行といっても都内のホテルに1泊して、ちょっと贅沢な食事をするだけだが、宿泊すれば旅なわけで見慣れた町なのに旅

行者の気分になっている自分に驚いた。食事をしたレストランの隣の席には2人づれの女性がいて声のたいへん大きかった。TVの仕事をしているらしくタレントの名前を連呼しながらの自慢ばなしが延々と続いていた。「ああいうのは恥ずかしいね」と妻との意見は一致した。

時間を置くと作品が冷静に観える、持続しているテンションと新鮮なテンションが絡む。まだまだ終わっていなかったようで再開である。ちょうどいい着地点は作品によって違う。そういうことに耳を澄ませていようと思う。まだまだ終わらない。

しのもラ郭オき るく品を精だずうの三地心い絵 つではう絵よな描 様丁のさじ鉄敷晴には くれボ 八  
 謹世なッ線レだ私 とを讀進ひ、でご画に中たを先 たす後のはうりい思子寧来れ茶瓶にれは三ボ享なたク八月の  
 すんで界いとでン。はこ写破でた売あ自伯きすが描生。がにで完か、ていにに客るとが通晴根度ク年が。ボ月  
 ④であるまの明描シ赤花 ろ経しあする宅にたる、きは、こもあ成、何い出心おにの、かされ府伺ボ九らコクこと  
 冥福に一た色・景 仏れ法たにと絵よ事い悟てが いに、てと間没い温て自あしてのし、て先二こーん日  
 を極点絵に黄の 世。経正業せ発通れ。根捨生は お一んたがつのはつしなたり、所がるの。だユ亡方、  
 お楽のは太・絵 界そ二法一ず表つ、里府て活東 話度な。つた状、たさ所。も、火だ広。お つをく、  
 祈り 浄曇、い緑が での十眼筋、もた鎌見川絵し京 でき経とくで態絵。れ作ふてほ鉢。が眼宅 た制な橋  
 り 土りカ輪・好 あ描八蔵のたせそ倉勝のとて あり 験いとしにを るでいなうに座り下に。作ら本

女流展開催を前に事務局の豊島シズ枝氏に、お話を伺いました。

Q創立はいつごろになりますか。

A創立は昭和62年(1987)第1回展は市民会館でやったと思います。最初は27人いたんです。退会したり、亡くなられた方もいて、現在は13人です。

Q女流展を始めるきっかけは？

A創立時は西相美術会員が主体ですけど女性がよく働いていたんです。それで女流展をやろうと思ったんです。加藤千枝さんと近藤和子さんとかと始めました。

Q会のモットーはありますか。

Aモットーは懇親ですね。毎年画廊や西相美術の方をお呼びして、オープニングパーティをやっていました。女性がよく働いているということをアピールしたい、より深い交流を図るという気持ちでやっていました。

Q制作面で心がけていることは？

A女流展は大きい作品を出すことを目的にしています。テーマを設けることはしません。それでないと皆が自由にやれませんか。以前は大人数だったから一人1点でしたが、数年前から人数も減ってきたので、今は2点にしています。会場効果を考え無理には詰め込まないように展示します。

Q9月女流展、10月西相展と連続しますが大変ですね。

A大変ではあるけど、それくらいの努力は絵描きなら当たり前のことです。あるとわかっていれば、計画して描けばいいことですから。

Q長い会の歴史の中で思い出は？

A昔はチャリティ展をやりました。それがひとつの目的もあり、2回目の時から15回やりました。展示会も大事ですが只自分の満足のために絵を描くのではなく、チャリティにより何かに尽くしたって考えたいんです。チャリティの売り上げは市を通じ身体障害者の会に寄付しています。私達はそんなに大それたことはできないけど、何かしなくちゃいけないと思ってしているだけです。

Q長く続ける上でのご苦労は？

A売れないから止めるというよりは、続けることの方が大事。身体障害者は今年で終わりにするわけではないですから。少しでもいいから、たとえ3円でも5円でもやるという気持ちで、身体障害者の方に対する気持ちが大事だと思っています。振り返ってチャリティ展ができたのが、一番よかったと思っています。

現在チャリティ展はグループ碧に引き継いでやっています。

[取材を終えて]

女流展は豊島シズ枝氏を中心に切磋琢磨し続けられている。90歳になる今も現役で、9月末には飛鳥画廊での個展も控えている。会員相互の画業の向上を目指し、創作に臨む厳しい姿勢に、会員の皆さんも応えている。小田原女流会は西湖地域にあって強い存在感を持つ。また只自分の満足の為に絵を描くのではなく、社会に貢献したいと強い意志を持ち、長年に亘りチャリティ展を継続してこられたことも素晴らしいことである。Ⓞ



豊島シズ枝氏 画  
「五月の終わり」

水曜会展開催を前に、代表の柏木隆一氏にお話を伺いました。

Q創立はいつごろになりますか。

A水曜会は昭和30年(1955)父の柏木房太郎が創立しました。水曜日に絵画教室をやっていたところから水曜会としました。多い時には教室には40~50人位いましたね。水曜会は創立会員を中心として、OBも入っています。現在会員は20人です。西相美術協会会員が5名、市展で市長賞受賞者が3人います。また西相展、箱根風景画展での受賞者も多く、現展、二科、国画、一線美術等全国の公募展出品者もいます。



柏木隆一氏 画  
シリーズ  
「記憶の中の風景」

Qまさに実力者揃いの会ですね。別に柏水会(神山務代表)というのがありますが、こちらとの関係は？

A柏水会は父が亡くなった後もアトリエにきていて、自由に描いていた人たちが作った会なんです。アトリエでは静物画も描いていましたが、風景画が多かったですね。

Q房太郎先生の教え方はいかがでしたか。

A初心者には筆を入れることもあったようですが、たいてい言葉で教え、あまり筆を入れることはなかった。皆さん色とか形とか、父の絵に似てますよ。いいところを取り入れてる感じですよ。あと、教室ではヌードデッサン会もやっていて、当時他にはやるところがなかったので、結構集まってきていましたよ。年に数回やっていました。そういう中から教室に入った人もいます。

Q教室以外での活動はありますか。

A水曜会ではフランスへスケッチ旅行に2回行ってっています。そのスケッチを作品にして出品するというかたちで、外国の絵が多いです。あとは皆さん個々で行っています。神山先生は毎年いっておられます。国内も皆でよくスケッチに行っています。父を乗せながら行くというパターンで、車を堀内さんが運転し、山口一郎さんとか乗せて行ってましたね。

Q会のモットーは？

Aそう、懇親ですね。昔は新年会、忘年会もやっていました。最近水曜会のオープニングパーティになっています。皆さん顔を合わせ、元気でやりますかという感じですよ。昔から知っている仲間なので、ざっくばらんところがいいですね。だから私がポンポン言っても、普通ならやめるってところを辛抱強く、しょうがねえって感じでやってくれてるんじゃないですかね。とにかく楽しく描いてもらうのが一番ですね。

[取材を終えて]

水曜会は故柏木房太郎氏の創立になる。今でもファンは多く、小田原では親しまれている画家である。生前柏木教室は隆盛を極めたであろう。優れた会員の存在がそれを物語っている。父の死後長男の隆一氏が代表を務めてこられた。会員の殆どは隆一氏より年長で先輩であり、実力者揃いである。そんな中、会は隆一氏を中心によくまとまっており、自由で明るい雰囲気である。会員のみなさんの代表を支えようとする暖かな心と、隆一氏の飾らない明るい性格によるものだろう。会のモットーは懇親という通り、お互い好きな絵を通し楽しく学び合い交流し、喜びを感じることでできる会である。Ⓞ

『ようこそ松永記念館』

上田菊明の世界一足柄刺繍の技と美一

平成25年9月7日(土)~10月6日(日) 午前9時~午後5時

会場 松永記念館 観覧料 一般300円 大学生以下無料 問 0465-23-1377 (郷土文化館)

近代小田原では「縫箔」とよばれる技法による刺繍製品が一大産業として栄えていました。芯肉に綿糸を高く入れ、ぼかし染めした糸で仕上げることで実現される立体的で華やかな表現に特色があり、縫箔が施されたガウンやスカーフが人気を博し横浜港より輸出されていました。この技術は今に伝え、現代にも通じる作品を制作しているのが上田菊明氏です。上田氏は図案の作成・糸の染織・縫いの全てを自身で行っており、その高い技術に支えられた刺繍作品は、伝統工芸の枠を超えて美術作品として高い評価を得ています。

本展は、小田原城天守閣に展示されている「巡る季節 Part I」などの代表作を中心に訪問着や最新作も含めてご紹介するもので、上田氏の作品の精髓をご覧いただける内容となっています。また、9月21日(土)~23日(月・祝)の3日間に限り、板橋・内野邸において帯と野草小額を特別公開します。明治36年建築の歴史的建造物と足柄刺繍のコラボレーション展示も必見です。今年の芸術の秋のスタートは小田原・板橋から。みなさまのお越しをお待ちしています。

松永記念館学芸員 中村暢子



上田菊明「巡る季節 Part I」小田原城天守閣蔵